

2023年日本平和大会in鹿児島ニュースno.4



発行:2023年日本平和大会実行委員会(事務局:日本平和委員会内) 2023/7/13

Tel 03(3451)6377 Fax 03(3451)6277 Email:info@j-peace.org

大会の内容を概ね確認 第3回実行委員会

23年日本平和大会実行委員会は12日午前、第3回実行委員会を開催。13中央団体、現地実行委から18人参加しました。

はじめに、東森安保破棄中央実行委事務局長が情勢報告をかねた開会あいさつ。続いて千坂日本平和委事務局長が開会集会、学びと交流のつどい、分科会、閉会集会の具体化の状況等について報告し、それぞれについて討議しました。続いて、宣伝、学習パンフ、参加組織についても討議し、8月から宣伝、学習活動を展開していくこと、都道府県実行委員会の結成に都道府県組織が参加していくことを呼びかけていくことも確認しました。



悪法強行の通常国会後も戦争国家の具体化すすめる岸田政権 東森安保破棄実行委事務局長の開会あいさつ(要旨)

6月末に閉会した通常国会では、安保3文書にもとづく軍拡財源確保法と軍需産業支援法が成立させられました。軍拡財源確保法については、全野党反対でしたが、維新や国民などは軍拡反対という立場ではなく、財政論の立場からの反対でした。軍需産業支援法については、維新や国民だけでなく立憲民主党も賛成でした。ここに日米軍事同盟=安保条約をめぐる現状が表れているということができるといいます。

ほかにも、原発、入管法、LGBD、マイナンバー問題など、強行された悪法強行とのたたかいを引き継ぎ、平和大会の内容づくりにも生かしていくことが求められていると思います。その後の出来事もこの流れのなかにあります。

殺傷兵器の輸出に踏み出そうとしている岸田政権 1つは日本の武器輸出。日本の武器輸出は、長い間「武器輸出3原則」によって原則禁止とされてきましたが、2014年に安倍内閣が、武器輸出を原則解禁とする「防衛装備移転3原則」を決定したことによりそれが転換されました。しかし、運用指針により、戦闘機やミサイルなど殺傷能力のある兵器については、同盟国などとの共同の開発・生産に限られています。

安保3文書は、武器輸出を「重要な政策的な手段」と位置づけ「3原則や運用指針の見直しについて検討する」とし、これを受けて自民・公明両党の「実務者協議」は5日、日本が共同開発した武器を日本から第三国に直接輸出できるようにする方向を打ち出し、日本産の兵器が海外で使われて死傷者が出る問題よりも、軍需産業の利益を優先しました。さらに、現在の運用指針で認められていない、「人を殺傷したり物を破壊したりする武器」を輸出できるようにするというものです。武器輸出の全面解禁による「死の商人」国家をめざすものです。これは、通常国会で強行された軍需産業支援法と一体のものであり、「安保3文書」にもとづく岸田政権の「戦争国家」づくりの一環です。

クラスター爆弾供与に「理解」を示す岸田政権 もう1つ、7日にバイデン米大統領がウクライナへクラスター爆弾を供与すると表明した問題についての岸田政権の対応についてみておきたいと思います。詳しいことは省略しますが、ベトナム戦争時の民間人被害が50年以上たつ今も続いています。使用や製造を禁じるオスロ条約が2008年に発効し、日本を含む110カ国が参加しています。(次頁へ)

しかし、米、露、ウクライナは不参加。条約が、製造、使用禁止、被害者支援などだけでなく、非加盟国に使用させない努力義務が課せられているもと、イギリス、イタリア、スペイン、カナダ、ドイツなどがアメリカの供与に反対しています、しかし、松野官房長官は10日の会見で、アメリカに「理解」を示し、事実上賛成しています。どこまでアメリカ言いなりかといわなければなりません。

佐賀空港へのオスプレイ配備のための工事強行とそれに対する裁判闘争、米海兵隊オスプレイの低空飛行が日米合同委員会で公式かつ無期限に確認されたこと、馬毛島の軍事基地化の工事推進など、鹿児島大会テーマをめぐる情勢は大きく動いています。こうした動きに全国の運動が対応できるよう、大会成功に向け、準備とたたかいをすすめていきましょう。

■ 確認された主なプログラム ★青字は今年の特徴（つどい、シンポ・分科会のテーマを除く）

◎ 11月11日 開会集会 13時～15時30分 宝山ホール

大軍拡・『戦争国家』づくりストップ、憲法守れの共同示すリレートーク

海外からの連帯のあいさつ 韓国・釜山「平和と統一を開く人々」、ウクライナ、反NATO 運動

鹿児島空襲の体験を踏まえ、反戦平和を訴える

文化企画 熊本のミュージカル劇団「天然木」

全国・九州のたたかひの交流 *西之表市(馬毛島のたたかひ)から10人参加!

フィナーレ

◎ 11月11日 学びと交流のつどい 16時30分～18時30分 *テーマは仮を含む

○青年企画 ○韓国代表との交流会 ○馬毛島基地建設に反対する市民との交流会 ○鹿児島の戦争と平和の歴史を学ぶつどい交流会 ○九州の軍事化問題の学習と交流 ○憲法9条にもとづく平和外交の可能性を学ぶつどい ○オスプレイ問題を深掘する交流会 ○日中と琉球の歴史から台湾問題を考える交流会

◎ 11月12日 シンポ・分科会 9時～11時50 *テーマは仮を含む

①国際シンポ「軍事対立から抜け出し、核兵器のない平和なアジア太平洋をつくるために」 ②「戦争国家」づくりの大軍拡に反対する運動 ③大軍拡路線反対と結んだ全国の基地闘争の交流 ④軍事費削って暮らし、医療、教育に ⑤自衛隊員募集業務への自治体などの協力問題 ⑥歴史認識問題、次世代にどう戦争を伝えていくのか ⑦入門分科会(安保、敵基地攻撃そもそも問題) ⑧動く分科会: 知覧特攻平和会館訪問(バス1台、集合時間は8時頃の予定)

◎ 11月12日 閉会集会・パレード 13時30分～15時

閉会集会(30分) みなと大通り公園

パレード/公園～鹿児島中央駅～向かい、高見橋ライオンズ公園流れ解散の予定

◎ 11月13日 オプション企画 馬毛島基地建設反対交流会

鹿児島港7時30分発～西之表市で交流～15時30分帰着

■ **パンフの予定** 7月中に完成する予定です。日にちが確定しましたら注文用紙を添えてお知らせします。秋に解散・総選挙の可能性も。また、8月末には概算要求が出ます。パンフで大いに学びを広げ、「大軍拡2年目は許さない」世論と運動の力にしましょう。パンフを使ったオンライン学習会を、8月中に開催する予定です。

■ **チラシの予定** 8月1日の世界大会・広島の袋詰めに間に合うようにします。同時期に全国に発送できる見込みです。実績をふまえて注文下さい(無料)。実績よりも多い所は、自主的に増し刷りしていただくことをお願いする場合があります。

■ **開催要項と参加申し込み用紙の予定** つどい、シンポ・分科会のテーマが確定したら開催要項を参加申し込み用紙(中央団体用)と合わせてお送りします。★都道府県実行委員会の準備をしましょう。中央団体は、都道府県機関に、そこへの参加を呼びかけましょう。

■ 次回(第4回)実行委員会 8月30日(水)10時～ オンライン